

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
リハビリテーション医学3							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	4期	木下 修		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門基礎分野	疾病と傷害			座学	1	10	
科目概要							
1. リハビリテーション医学の具体像を把握する。 2. 実際の臨床現場で役立つ、リハビリテーション医学の基礎知識の習得を目標とする。 3. 高齢化医療や在宅医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師としてリハビリテーションに関わる患者さんを正しく理解・管理するために、診断・評価(検査・測定)・治療・予後に必要となる基本的知識を修得する。また、地域医療に関わる一員としての技能と態度を身につける。						
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. リハビリテーションにかかわる医療職を理解できる。 2. 各疾患の原因を列挙できる。 3. 疾患に必要な治療を列挙できる。						
履修に必要な予備知識や技能							
1. 解剖学・生理学・運動学を踏まえて障がい者の疾患、疾病を理解ができる。 2. 疾患学を理解する							
教科書・参考書							
リハビリテーション医学改定第4版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 出版社: 南江堂							
受講上の注意							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	高齢者のリハビリテーション: 平均寿命と健康寿命・脳卒中			P157~168	筆記用具		
第2回	高齢者のリハビリテーション: 脳卒中			P168~190	筆記用具		
第3回	運動器のリハビリテーション: 骨折の治療と後療法			P190~201	筆記用具		
第4回	運動器のリハビリテーション: 捻挫へのアプローチ			P201~205	筆記用具		
第5回	運動器のリハビリテーション: 上肢損傷後症候群・下肢損傷後症候群			P205~225	筆記用具		
第6回	運動器のリハビリテーション: 頸肩腕症候群の病態アプローチ			P225~231	筆記用具		
第7回	運動器のリハビリテーション: 腰痛症の病態とアキレス腱断裂へのアプローチ			P231~245	筆記用具		
第8回	リハビリテーションと福祉: 障がい者スポーツ			P245~257	筆記用具		
第9回	定期試験						
第10回	試験の解説						
実務経験と本講義との関連について							
総合病院にて、集中治療・急性期・回復期医療、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、脳卒中専門病院、訪問リハビリテーション、保健所、介護認定審査委員、整形外科クリニックでリハビリテーションなどの医療機関を中心に実務を行っていました。大学では、理学療法概論、リハビリテーション概論、運動療法概論、義肢装具学、物理療法学、高齢者理学療法学等の講義を担当していました。実務経験4 2年							
メールアドレス							
o-kinoshita@nihireha.ac.jp							